

まち ひと な まえ
町や人の名前になった!

いえ やす でん せつ
家康のおもしろ伝説

ち めい へん
～地名編～

はままつ し しゅうへん
浜松市やその周辺には、家康伝説がいろいろあるよ。なかには、伝説がそのまま地名になったり、人の名字につかわれたりもしているんだ。



どんなものがあるか調べてみるのじゃ!

地名のおもしろエピソード

あずき もち
① 小豆餅



み かた が はら たたか
家康が三方ヶ原の戦いに負けて浜松城に逃げ帰る途中、茶屋に寄って小豆餅を食べたんだって。その場所はそれから「小豆餅」と呼ばれるようになったよ。

ぜに とり
② 銭取

茶屋で小豆餅を食べていた家康は、武田軍が追いかけてきたため、お金もはらわずに逃げってしまった。茶屋のおばあさんは家康を追いかけて、ようやく追いついて代金をはらってもらったんだ。そこは後に「銭取」という地名になったんだって。

※銭…お金のこと



③ 布橋

戦いに負けた徳川軍は、夜になってから犀ヶ崖に大きな白い布を張り、まるで橋がかかっているようにみせかけた。武田軍はそれを渡ろうとして崖に転落し、たくさんの死傷者が出たんだって。その場所は今、「布橋」と呼ばれているよ。その後、三方ヶ原の戦いや犀ヶ崖の夜間攻撃で亡くなった人を供養するために行われるようになったといわれているのが、現在まで続く郷土芸能の「遠州大念仏」だよ。



犀ヶ崖や、犀ヶ崖の資料館に行くと、三方ヶ原の戦いのことがよくわかるよ。現地を实际に見て、伝説のようなことが本当にできたのか考えてみよう。

浜松にはほかにもまだ家康にまつわるいろんなおもしろ伝説があるので、興味のある人は調べてみるのじゃ!



▲ 犀ヶ崖

! 研究のヒント

家康のおもしろ伝説を調べよう。地図をつくってまめめると、家康が戦いに負けて逃げ帰ったルートがわかるかもしれないね。

